

68. 「子どもを育てることの出来ない社会の変化」

2016.7.1 遠藤清賢

50年前と今の社会を比べるとその変化の速さに驚かされます。実際に日本の私たちはこの環境の中で生活しているので、あまり問題は感じていません。この変化に遅れないように生活していると思います。改めて、子どもを育てることに視点を置いて考えて見ると、子育て環境やその考え方が大きく変化したことに気が付くと思います。昔は、子育ては地域社会が家族を支え家族全員が母親を支え、母親が安心して子の成長を支えることができるような環境があったと思います。地域全体でお母さんたちを精神的に支えていた社会だったと思います。現代社会ではその役割は保育園、幼稚園等になっていると思います。年長になるにしたがって施設の役割はより重要になっています。待機児童の多い地域では、子どもが施設に入れないとその家族の生活に大きな支障が生じてしまう社会に変化してしまいました。

0歳児を保育園に預け働いているお母さんたちは年々増加しています。10年前に比べると0歳児保育が急速に増えていることを感じています。この状況はある意味、日本の社会が貧しくなっている証拠だと言っている保育関係者がいますが私もそう思います。生活する上で働かざるを得ないお母さんたちが多くなり、働かなければ生活できない社会になってしまったと言っても良いと思うのです。勿論働くことに生きがいを感じ、積極的に働いているお母さんたちも多くいることは事実ですが、大半のお母さんたちは生活のために子どもを施設に預けて働いているという方が多いのではないのでしょうか。

施設を利用しない場合でも、核家族での子育てはお母さんたちにとって大きな負担となっています。人間関係の繋がりが希薄になり子育てをしている母親を支える地域社会ではなくなっています。従ってお母さんは孤独になり、不安と迷いの中で自分の赤ちゃんに関わらざるを得ないのです。母親一人での子育ては、その母親に強い負担感を負わせる社会に変化してしまいました。母親を支える三世同居や近隣社会との関係が希薄な地域ほど子どもを育てる環境が失われています。

人を信じることができない社会になっています。考えられないような事件が頻繁に報道されています。子ども達に人に会ったら笑顔でしっかり挨拶することや、知らない人に気軽に声を掛けることはいけないことだと伝える施設もあると思います。知らない人は悪い人かもしれないというようなことを子ども達に伝えなければならぬのです。多くの保育施設は、部外者が勝手に入れなくする壁を設けることや、監視カメラを付けています。不審者が入って来たことを想定した訓練をするように指導されています。今の社会は人を信じてはいけないことを暗に子ども達に教えてしまっています。人を信じなくなれば、人を愛することもできなくなります。

このように現代社会は子どもを育てることができない社会に変化してしまいました。ですから、子どもたちは生まれなくなり、少子化になるのは当然の結果です。私たちは人を信じなくなり、生活は貧しくなっています。そして、母親は子どもを孤独の中で育てなければならないし、働かなければ生活できない社会にいつの間にか変わってしまいました。この異常な社会の中で私たちは当たり前のように過ごしています。しかし、今の社会がどうであれ子どもたちを本来あるべき身体と精神を持った人間に育てなければなりません。人はどうあるべきなのかをその真理を思い起こす必要があります。人々がお互いに支え合い、信じ合い、命を大切にできる社会を創らなければなりません。



しそ入りバーグ

《材料》4人分

木綿豆腐：80g、豚挽き肉：150g、
玉ねぎ中：1/3、人参中：1/5本、
青しそ：3～4枚、パン粉：大さじ2、
醤油：小さじ2

《作り方》

1. 豆腐はキッチンペーパー等に包んで重しをし、水切りして置く。
2. 玉ねぎ、人参、青しそはみじん切りにする。
3. 材料を全て混ぜ合わせ、よくこねる。
4. ハンバーグの形にまとめてフライパンで両面を焼き中までしっかり火を通して出来上がりです。



奥州市江刺区男石1丁目3-5 社会福祉法人 江刺保育園 子育て支援事業

電話 0197-35-1522 ファックス 0197-35-1741

子育て広場「友遊広場」専用電話 090-7327-9686

Eメール esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp

ホームページ

<http://www.esashihoikuen.com/>